

岡山ゆかりの講師から、楽しく学ぶ。

おかやま がくしゅう 楽習塾 5期

Okayama
Gakushujuku

5

塾生募集

会員制の連続講演会「おかやま楽習塾」の第5期塾生を募集します。文化、経済など各界で活躍する岡山ゆかりの専門家を講師に招き、毎月1回開講。幅広い知識を学びながら、岡山の魅力を多面的に探っていきます。

日時	2014年7月～12月の毎月1回 13:30～15:00 [13:00開場]		
会場	山陽新聞社さん太ホール [岡山市北区柳町2-1-1]		
定員	300人	受講料	6,000円 [6回分]
お申し込み	はがき・FAX・Eメールのいずれかで、①郵便番号 ②住所 ③名前(ふりがな) ④電話番号 ⑤年齢 ⑥さん太クラブ会員番号(会員でない方は未加入と記入)を明記し、下記まで先までお送り下さい。応募多数の場合は抽選し、結果は全員に郵便で通知します。さん太クラブ未加入者で当選した方には、入会申込書を送ります。		
あて先	はがき 〒700-8634 岡山市北区柳町2-1-1 山陽新聞社事業本部「おかやま楽習塾」係 FAX:086-803-8115 E-mail:okajuku@sanyo.oni.co.jp		
締め切り	6月25日 [水] 必着	受講資格	さん太クラブ会員 [加入無料]
お問い合わせ	山陽新聞社事業本部 TEL 086-803-8015	主催	山陽新聞社

第1回 7月19日 土

歴史学者・東京大学史料編纂所教授

山本 博文



●岡山藩の成立と伊賀上野の仇討ち

岡山藩と鳥取藩は、ともに池田輝政の子孫によって成立します。両藩の成立に影響を与えた伊賀上野の仇討ちに繋がる事件と、武士道のあり方について講演します。

Profile 1957年津山市生まれ。東京大学卒、同大学院修了。同大史料編纂所助手などを経て2001年から同所教授。専門は江戸時代の政治史、武士研究。幕府や大名家史料を調査し、外交政策における為政者の意図の解明、幕臣の出世から大奥女中まで幅広く研究しているほか、映画「天地明察」などの時代考証も手掛ける。「切腹」「日曜日の歴史学」「歴史をつかむ技法」など著書多数。

第2回 8月23日 土

山田方谷六代目子孫

野島 透



●山田方谷に学ぶ改革成功の鍵～岡山から日本を変える～

上杉鷹山を上回る財政改革者とも言われる山田方谷。方谷はどのような改革を行い、なぜ改革が成功したのか。その理念、手法を解明すると、会社の拡大・発展、国・地方公共団体の運営の道筋が見えます。さらに閑谷学校を再興した方谷の教育理念、方法が現在教育に役立ちます。

Profile 1961年三重県生まれ(父までは岡山県出身)。山田方谷六代目子孫。東京大学卒業後、大蔵省(現財務省)入省。大阪国税局査察部長、内閣府参事官、財務省大臣官房文書課室長、同会計課長などを経て、2013年7月から九州財務局長。方谷の改革に関心を持って約10年前から研究を続け、著書に「山田方谷の夢」「山田方谷に学ぶ改革成功の鍵」など。「山田方谷を広める会」応援連絡会顧問なども務める。

第3回 9月20日 土

金沢21世紀美術館館長

秋元 雄史

Photo/疋田千里



●楽しむ現代美術 ー参加型美術と金沢21世紀美術館

多様な現代美術の楽しみ方を金沢21世紀美術館の活動を通じて紹介します。現代美術は難しいという声を聞きます。現代美術作品の多くは「考える場所」を提供することがひとつの役割。知識や知覚を総動員して自分なりの美的な経験をして、答えを引き出す。それが正しい現代美術へのアプローチ。現代美術は難しいものばかりではない。子どもから大人まで楽しめるし、感覚的、触覚的にアプローチして十分理解でき、楽しめる作品も数多くあります。

Profile 1955年東京都生まれ。東京芸術大学美術学部絵画科卒業後、91年より(株)ベネッセコーポレーションに勤務。美術館の運営責任者。92年よりベネッセアートサイト直島・チーフキュレーター。2004年より地中美術館長、公益財団法人直島福武美術館財団常務理事、ベネッセアートサイト直島・アーティストティックディレクター。07年より現職。13年より東京芸術大学での客員講師も務める。

第4回 10月18日 土

建築家・早稲田大学名誉教授

石山 修武

Photo/K.Kanematsu



●岡山県の歴史を活かした 独特な地域づくりについて

岡山県人の気質は穏やかで、競争心が少ないと言われる。これまでの日本成長期においては価値になり難かった。産業・経済が高度に成長できない中においては、そのネガティブな特徴が一転して価値あるものになると考えます。グローバリゼーションの経済の中で独自のゆとりと閉鎖したシステムをつくるのを、東アジアの中で構想するにはどうすればいいか。中国・東南アジア・インドとの関わりの中でそれを見つけ出したいと思います。

Profile 1944年生まれ。早稲田大学大学院修了。88年から2014年3月まで同大教授を務めた。2014年4月より同大名誉教授。建築家。1975年に土木工用鉄パイプを外壁に使った住宅「幻庵」を設計。2002年に自邸「世田谷村」で芸術選奨文部科学大臣賞を受賞したほか、長八美術館で吉田五十八賞、リアス・アーク美術館で日本建築学会賞を受けている。14年4月にスタジオGAYAを創設し、建築設計・創作活動を幅広く行っている。

第5回 11月15日 土

鳥取環境大学教授

小林 朋道



●ヒトの表情をめぐる動物行動学

ヒトの表情についてはこれまで、心理学を中心とした膨大な研究がありますが、動物行動学の研究の視点は、これまでのものとはちょっと違ったところがあります。それは、「進化的適応」という羅針盤をたずさえているということです。たとえば「笑い」という表情については、笑いが起こる条件や、笑いに特有な顔や声のパターンの由来も踏まえて、それは、笑うヒトにどんな利益があるのかについて考えるということです。幾つかの表情をめぐる出来事を例にして、ささやかな動物行動学的思索をしてみたいと思います。

Profile 1958年美作市(旧勝田町)生まれ。岡山大学生物学科卒業。京都大学で理学博士取得。高校教諭などを経て、2005年から鳥取環境大学教授。現在、同大副学長補佐。専門は動物行動学。著書に「ヒトはなぜ拍手をするのか」「利己的遺伝子説からみた人間」「先生、ワラジムシが取っ組み合いのケンカをしています!鳥取環境大学の森の人間動物行動学」など。山陽新聞子どもしんぶん・さん太タイムズで「コバヤシ先生に学ぶ動物行動学」連載中。

第6回 12月20日 土

静岡文化芸術大学学長

熊倉 功夫



●和食と郷土 ー世界無形文化遺産「和食」を考える

ユネスコの無形文化遺産に和食が登録されました。すぐに「トンカツは和食ですか」とか「ラーメンは?」という質問が殺到しました。

今回は、和食という日本人の伝統的な食文化について、その内容と意義をお話します。

Profile 1943年東京都生まれ。東京教育大学(現筑波大学)大学院博士課程修了。日本文化史、特に茶の湯研究の第一人者として知られる。京都大学助手、筑波大学教授、国立民族学博物館教授などを経て2004年4月、林原美術館長に就任。12年3月に退任した。10年から静岡文化芸術大学学長。和食の世界無形文化遺産登録に向け、農水省の検討会長を務めた。「近代茶道史の研究」「日本料理の歴史」など著書多数。京都市在住。